



* 学校便り作成にあたり、生徒の文章や写真を使用する場合があります。浅野川中学校個人情報取扱規程を遵守しておりますが、お気付きの点がありましたら学校までご連絡ください。

9月1日は「防災の日」です

～今年の政府の総合防災訓練は、南海トラフ巨大地震を想定～

9月1日が「防災の日」と制定されたのは、大正12年（1923年）9月1日に発生した関東大震災を教訓にするためです。この大震災では10万人以上が犠牲となり、その惨状を風化させず、国民一人ひとりの防災意識を高め、災害への備えを充実させることを目的としています。また、この時期が台風シーズンの到来と重なることも、防災の日の制定に影響を与えました。

防災の日は、災害への備えを見直し、実際に行動を起こす絶好の機会です。各家庭では、家具の転倒防止や非常用持ち出しバッグの準備、備蓄品の点検をおこない、災害時の行動マニュアルを再確認しましょう。

防災で一番大切なことは、「自分の命を自分で守るための日頃からの備えと知識」です。具体的には、まず自分の住む地域のリスクを知り、必要な食料や水などの備蓄を行い、避難場所や避難経路を確認することが大切です。また、いざというときに落ち着いて行動できるよう、事前にハザードマップを確認したり、家族で避難方法を話し合ったり、防災訓練に参加したりするなどの行動が、自身の命を守る上で重要となります。

【関東大震災とは】

大正12年（1923年）9月1日11時58分に、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定される関東大地震が発生しました。この地震により、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県で震度6を観測したほか、北海道道南から中国・四国地方にかけての広い範囲で震度5から震度1を観測し、10万棟を超える家屋を倒潰させました。また、発生が昼食の時間と重なったことから、多くの火災が発生し、大規模な延焼火災に拡大しました。

この地震によって全半潰・消失・流出・埋没の被害を受けた住家は総計37万棟にのぼり、死者・行方不明者は約10万5000人に及ぶなど、甚大な被害をもたらしました。下表のとおり、近年の大震災と比べても、その被害規模と社会経済的なインパクトは極めて大きかったことが分かります。

	関東大震災	阪神・淡路大震災	東日本大震災
発生日月日	1923年（大正12年）9月1日 土曜日 午前11時58分	1995年（平成7年）1月17日 火曜日 午前5時46分	2011年（平成23年）3月11日 金曜日 午後2時46分
地震規模	マグニチュード M7.9	マグニチュード M7.3	モーメントマグニチュード Mw9.0
直接死・行方不明	約10万5千人 （うち焼死 約9割）	約5,500人 （うち窒息・圧死 約7割）	約1万8千人 （うち溺死 約9割）
災害関連死	—	約900人	約3,800人
全壊・全焼住家	約29万棟	約11万棟	約12万棟
経済被害	約55億円	約9兆6千億円	約16兆9千億円
当時のGDP	約149億円	約522兆円	約497兆円
GDP比	約37%	約2%	約3%
当時の国家予算	約14億円	約73兆円	約92兆円

出典：諸井・武村（2004）『日本地震工学会論文集』第4巻第4号、東京市役所（1926）『東京震災録：前編』、一橋大学社会科学統計情報研究センター『長期経済統計データベース』、気象庁、警察庁、消防庁、復興庁、国土庁、内閣府、財務省、兵庫県資料をもとに内閣府防災担当作成

（内閣府「[関東大震災100年](#)」特設ページより一部抜粋）

今年の政府の総合防災訓練は、南海トラフ巨大地震を想定して、午前7時から行われています。

